

Plan Do See

「給食に感謝」

朝日町教育委員会 教育長職務代理 氷見 雅浩

早いもので教育委員を拝命して4年目。

教育に関する様々なことを教育委員として学ばさせていただきました。また、児童・生徒の皆から多くの感動と幸せな気持ちをいただきました。

私自身、飲食店を営んでおり仕事柄「給食」への関心が高く、学校給食のことについての思い出深い事をお話したいと思います。

夏休みの終わり頃に、私の店に来店されたお客さんが、学校給食の話をされました。「夏休み期間は、孫のご飯の用意が毎日大変なんだよ。だから、毎日の給食がすごく有り難い。」と言っておられました。

そのような中、昨年のおさみさと小学校2年生クラスでのたら汁給食に教育委員として招待していただいた時の事は、とても良い思い出です。

当時は、テレビや新聞などで給食の残食のニュースが報道されていました。地域の給食を給食センターが一括調理し、運搬に時間がかかるため焼き物や揚げ物が冷めている、固いなどの理由だそうですが、招待された教室では、担任の先生、児童の皆さんと当番の元気な「いただきます」の発声でたら汁給食をいただきました。一人一人、美味しそうに、好き嫌いなく食べる姿、何杯もおかわりする姿にとっても幸せな気持ちになりました。食べ終わった児童から全員が食べ終わるまで読書をしている児童、宿題をしている児童など、自分の勝手に行動するのではなく、相手を意識し友人を思いやる姿から、大きな成長を感じさせられました。私の給食訪問のために児童たちが考えたのか、一人一人短い自己紹介をしてくれました。好きなスポーツ、将来の夢、好きなお笑い芸人、好きなユーチューバーなど、全員しっかりと自己紹介をしてくれました。「来て良かった。」とても満ちたりた気持ちになりました。



それぞれの地域事情があると思いますが、朝日町では栄養士さんが栄養面や健康面などバランスの良い、季節ごとの献立を立ててくださり、学校では調理員さんが心を込めて調理して下さるお陰で毎日温かく体に良い給食を食べることができます。何より、皆で食べることは楽しく、一人では味わえないおいしさを感じることができます。また、たら汁給食など地域の特産品・伝統文化を継承する献立や「いただきます」の挨拶などの食事のマナー、準備や後片付けへの協力など、いろいろな意味で給食は有り難いんだと改めて感じました。

朝日町では、教室へのエアコン設置、各自が使えるタブレット、デジタル教科書など他の市町村と比べて大変恵まれた環境だと思います。私自身、何十年ぶりに給食を食べて、その事が朝日町だからできるとても大切な心と体の育成支援の一つだと思いました。

私たち大人も、食べることの知識と理解を深め、給食の大切さと有り難さに感謝したいと思います。

ともしがばりましよう

～今年度朝日町の学校に赴任されたみなさん～

「合唱コンクール」

朝日中学校 中西 勇太

私の中学時代、合唱に対して一生懸命に取り組んだ経験がありません。私自身も、音程や音楽記号に詳しいわけではなく、合唱指導に自信がありませんでした。それもあって初任者の頃は、担任としてどのように関わっていくべきなのか分からずにいました。しかし、年々合唱に関わっていくうちに、歌っている姿や歌声に感動し、魅了され、合唱が好きになっていきました。同じ曲でも、クラスが違えばできあがる合唱も違うところが魅力的だと思います。生徒は中学を卒業したら、合唱に取り組む機会が少なくなります。



“今しかできないことに全力で取り組む”

私は、生徒と一緒に、同じ目線で一つの目標に向かって努力していくことが、自分らしい生徒との関わり方ではないかと思ひます。今のクラスでしかつくりだせない、そしてクラス全員が忘れられないような合唱を、この朝日中学校でつくっていきたく思ひます。

「半年が過ぎて」

朝日中学校 岩田 寿浩



私は、この朝日町で教員生活がスタートできたことを大変うれしく思ひます。不安と期待で胸がいっぱいだった4月からあつという間でしたが、充実した毎日を送っています。明るく素直な朝日中の生徒、笑顔で気さくに話しかけてくださる保護者や地域の方々、そしてまだまだ未熟な私を支え、ご指導して下さる同僚の先生方に囲まれていることを幸せに感じながら働いています。

学生の時に自分の進路と向き合い、それまでの人生を振り返った時、頭の

中には数名の恩師の顔が浮かびました。学校生活や部活動で手を差し伸べ、励まし、時には叱っていただき、大きく成長させていただきました。そんな恩師の背中を追いたいと強く思ひ教師を志しました。

初心を忘れず、1つでも多くのことを生徒に伝え、共に学ぶことができる教師を目指し、元気に笑顔で教育に携わっていきたく思ひます。

” 学校生活から学んだこと ”

「伝統を大切に」

あさひ野小学校 大森 敦



今年、あさひ野小学校は『創立20周年』を迎えました。本校では、この20年間でたくさんの伝統や文化を築き上げられてきました。

そのなかの一つに、秋季大運動会に行われている「集団演技」があります。平成17年度に旧南保小学校との統合を契機に、運動会に「組み立て」が導入され、一昨年からは「集団演技」と発展して本校の伝統・文化として受け継がれています。

「集団演技」は、観る者を感動させ、魅了します。子供たちが、息を合わせ、互いの心を一つに集中して表現・演技する姿は観る者の心を動かします。演技の同時性や子供たちの動きの一体感など、集団演技のもつよさを感じ取ることができるからでしょう。

今年の秋季大運動会も5・6年生による「集団演技」が行われました。演技は、創立20周年を記念する見ごたえある内容でした。

これからも本校のよき伝統・文化を大切に受け継ぎ、新たな伝統・文化を築き上げていってほしいと願っています。

学びつづける教師であるために ～夏休みの研修の概要・感想～

情報教育研修会（タブレットの効果的な活用）

参加者42名

日時 8月3日（水） 場所 さみさと小学校コンピュータ室

講師 朝日町情報教育研究調査員6名、ベネッセICTサポーター2名

内容 「プログラミング的思考を育てる指導の在り方について」

今回の研修では、新学習指導要領の目玉の一つである「プログラミング教育」をテーマにおいて研修会を行いました。

まず、プログラミング的思考力の概念と必要性について、委員長から先生方に分かりやすく説明していただきました。

次に、研修1では、アンプラグドによる掃除手順表の制作実践、研修2ではビジュアルプログラミングの実践として「プログラミン」の活用、研修3では、フィジカルプログラミングの実践として「SPRK+」の活用について、調査員が中心となって説明し、受講者に子供たちの立場になって実践していただきました。

感想からは、「プログラミングと聞くとデジタルをイメージしてしまうが、アンプラグドによるアナログ的な活動を通して思考力を育てることが参考になりました。ぜひ2学期に実践したいです。」「プログラミング的思考力を意識した授業づくりに取り組むと、教員自身の思考力・伝達力の向上にも通ずるといことがとても納得がきました。子供たちにいかに簡潔に分かりやすく伝えるかを今一度見直したいです。」といった意見が多く聞かれました。



朝日町とやま型学力向上プログラム研修会

参加者名 42名

日時 8月6日(月) 場所 朝日町役場4階大ホール

講師 国立筑波大学附属小学校 教諭 加藤 宣行 先生

演題 深く考え、議論し、心が動く道徳授業の創造

今年度、小学校で教科化された「特別の教科 道徳」に着目し、指導力の向上を図ろうと考え、企画いたしました。講師には、光文の教科書編集に携わっておられる筑波大学附属小学校の加藤 宣行先生をお招きして「深く考え、議論し、心が動く道徳の創造」という演題の下、模擬授業形式でご講演いただきました。

加藤先生から以下の内容を教えていただきました。

- ①真の目的は、心が豊かになる・生きる力が育つこと
- ②C型(テーマ発問型)もしくはKTO型への授業改善
- ③板書の工夫は、子供の思考をサポートするツール
- ④道徳ノートが生み出す自己評価・自己指導
- ⑤明確な目的、方法、観点をもった道徳の評価

加藤先生は、「道徳は、子供の重しになるのではなく、よりよく生きる道を開放させるための道しるべになる。」とおっしゃいました。私たち教師も、「道徳を重しに考えるのではなく、よりよく生きる道を開放させるための教科として臨んでいくこと」「道徳の授業に求める子供たちの姿と同様に、教師も失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていくこと」の大切さに気付かされました。



授業力アップ研修会 (理科実験)

参加者 20名

日時 8月7日(火) 場所 さみさと小学校理科室

講師 県総合教育センター科学情報部 寺崎 清光・藤本 聡司・西谷 裕子先生

研修名 「電熱線の発熱実験」「ゴムで動かそう」

この研修会は、理科の授業力の向上を目的に、町内の小・中学校の先生方が集まって体験型の研修を受講していただきました。富山県総合教育センター科学情報部の主事に「電熱線」と「ゴム」の2つの研修をしていただきました。

「電熱線の発熱実験」では、「発砲ポリスチレンの板を電熱線で切る実験」を行う際に、妥当な実験結果を得るためには、電源装置を利用し、切れるまでの所要時間を記録するとよいことを学びました。また、手回し発電機を活用して、抵抗と電流、電圧の関係を改めて学びました。



「ゴムで動かそう」では、小学生でも簡単に作ることができる「ゴムの伸縮・ねじれを利用したおもちゃ」を作りました。1つは、「もどり車」、もうひとつは、「走るカップ虫」でした。受講した参加者は、丁寧に実験・制作を行ったり、完成した作品を動かして喜びの声を上げたりして、理科の楽しさを堪能しておられました。

受講者の感想からは、「電圧の変化する電池ではなく、電源装置を使って、電圧を一定にして実験するとねらった結果が求められることが良く分かりました。」「実験機器の使い方や、比較実験を行う際の準備物について実物を使って体験することでよく分かりました。」「身の回りにある材料

を生かしたおもちゃ作りをすることで、学習内容の理解や思考が深まり、興味の広がりにつながると感じました。ぜひ子供たちとやってみたいです。」といった前向きな感想が多くありました。

郷土を学ぶ研修会（現地学習会）

参加者 11名

日時 8月9日（木） 場所 笹川・宮崎・境・市振地区周辺

講師 朝日町教育委員会 学芸員 久保 貴志先生 郷土教育開発研究調査員 4名

研修名 「郷土の地質・化石について学ぶ」

この研修会は、地域の歴史・文化への理解を深めるために、郷土の史跡や施設等の見学を行うもので、朝日町の特徴的な研修です。今年度は、学芸員の久保貴志氏をお招きして朝日町の地質についてご教示いただきました。

研修では、笹川地区の岩石の変化や、鹿嶋神社の溶岩流からできた地層を観察しながら、東アジアでは珍しい地層の存在や日本列島の成り立ちについて学習しました。また、調査員の方からは大平地区・市振地区の地層の観察の仕方や境川河口での化石発掘の仕方等、実際にどう指導したらよいかという具体的な提案をいただきました。

参加者からは、「朝日町は、地層の宝庫であると聞いて、ここで働くことに誇りをもちました。」「久保氏のおっしゃった『理科を通して生命の尊さを教える』をぜひ子供たちに伝えていきたいです。」といった感想がありました。子供たちが、るためには、私たち教師がその良さを知ることが大切だと改めて感じる素晴らしい研修会でした。



授業力アップ研修会

参加者 14名

日時 8月23日（木） 場所 あさひ野小学校

講師 あさひ野小学校 教諭 水島 真寿美 先生

研修名 ファシリテーションスキルを生かした授業デザイン

今年度の講師は、昨年度、「内地留学」で「ファシリテーションスキル」「アクティブラーニング」「学び合いの仕組み」について深く研鑽を積んでこられた水島真寿美先生でした。

研修会では、ファシリテーションスキルの理念や効果、学び合いを生み出す授業プログラムのコツについて、理論と実践例を結びつけて、丁寧に教えていただきました。

また、グループワークでは、「ホワイトボードを使ったペアトーク」「カードを使ったお話づくりゲーム」「グループで協力し合うクイズゲーム」等の活動を通して、協同で活動する楽しさや真剣に聞いてもらうことから生じる満足感や有用感を、身をもって実感しました。

このように、すぐに実践できる手法を具体的に例示していただいたおかげで、2学期からの学級づくりに生かそうという意欲をもった参加者が多数見られた素晴らしい研修会でした。



第1回朝日町学校教育運営研修会

参加者 27名

日時 8月24日（金） 場所 鹿嶋神社 境内

講師 鹿嶋神社 宮司 九里 文子 氏

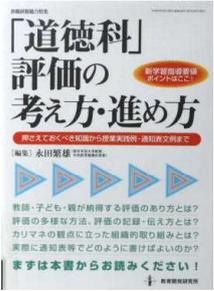
演題 「古代玉作の里に甦る神度神社」

九里氏は、「鹿嶋神社にまつわる海中洞窟の宮・竜宮の神話」、「明神と記された絵図や地内から出土した勾玉からの新たな発見」、「北村喜代松の最高傑作と言われる一木造りによる素掘り彫刻」等、驚きの事実や想像が膨らむ話をたくさんしてくださいました。その語りから、「鹿嶋神社の歴史・文化の伝承」への意欲を強く感じ、積極的な研究・広報活動に努めておられることに感銘を受けた教員が多数見られました。これは、学校教育における「郷土に誇りと愛着をもった豊かな心を育むこと」や、「予測困難な社会を切り開いていく力を備えた未来の担い手を育てること」という考え方の共通点を感じました。そんな教員として最も大切な使命感・情熱を再確認できた大変実りのある研修会となりました。



今秋の必読・必見 「忙中閑あり」

秋はいろいろな行事があり、とても忙しい季節でしたね。先生方におかれても、目の前のことに忙殺される毎日だとは思いますが、忙しい時だからこそ時間を見付けて、読書や映画で、心の栄養を蓄えましょう。「実りの秋」となることを願っています。

学びの共同体の挑戦	問題解決型学級経営	考え、議論する 道徳授業のつくり方・評価
佐藤 学	赤坂 真二	丸岡 慎弥
		
「道徳科評価」の考え方・進め方	授業づくりで子どもが伸びる、 教師が育つ、学校が変わる	教師の自己成長と 教育カウンセリング
永田 繁雄	石井 順治	諸富 祥彦
		
できる教師の 言葉かけマジック	月刊誌「児童心理11」 月刊誌「特別支援教育研究11」	月刊誌 総合教育技術11月増刊 「間違えないプログラミング教育」
諸富 祥彦	金子書房・東洋館出版社	小学館
	 	

編集後記

以前お世話になった校長先生が、卒業文集に「辛いと幸せ」の話を記載されました。

「これからの人生辛いこともあります。でも、『辛』に横一画が加えれば『幸』になります。あともう一步で、幸せが訪れるのです。」この言葉に私は大きな感銘を受けました。

今年度も折り返し地点。先生方は、きっと辛いこと、悩まれることが多いことでしょう。でもそれを乗り越えれば、必ず幸せが訪れるはず。先生や子供たち、地域の皆様が、幸せいっぱい笑顔になるよう願っております。

発行：朝日町教育センター

〒939-0743

富山県下新川郡朝日町道下1053-1

TEL (0765)83-0279

FAX (0765)83-0279

E-mail asahi-ec@tym.ed.jp

Webサイト <http://www.asahi-c.tym.ed.jp/>